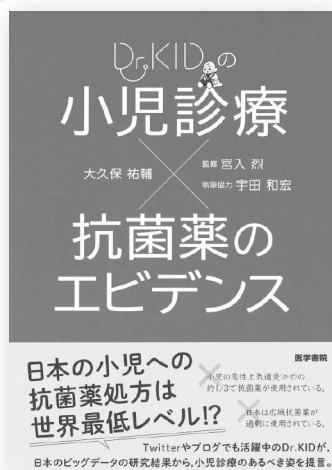




今月の特集関連本



Dr.KID の

小児診療×抗菌薬のエビデンス

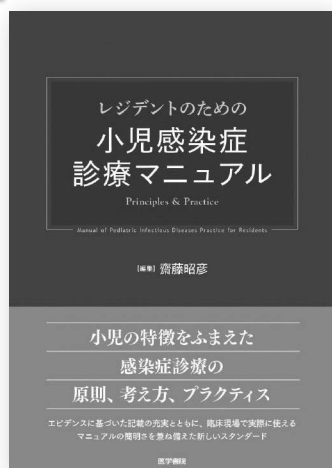
宮入 烈＝監修

大久保 祐輔＝執筆

宇田 和宏＝執筆協力

定価 3,850 円／A5 判・256 頁／医学書院／2020

なぜに抗菌薬は必要ないと知りながら、つい抗菌薬を処方してしまう…。このように、日本の抗菌薬の適正使用は世界最低のレベルにある。本書は、小児感染症と疫学領域を融合させながら、日本を代表するデータベースを用いて、小児の抗菌薬処方パターンを分析し、問題点をあぶり出している。Twitter やブログで活躍中の Dr. KID がよりよい診療に向けた抗菌薬使用の考え方を鋭く提言した。統計学や疫学の知識もわかりやすく解説している。



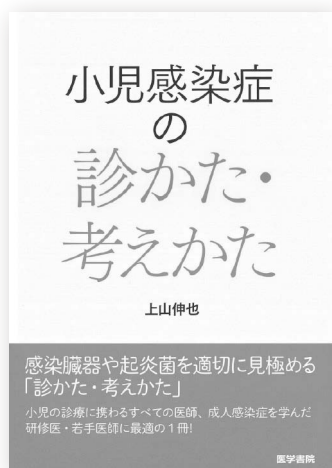
レジデントのための

小児感染症診療マニュアル

齋藤 昭彦＝編

定価 9,900 円／A5 判・884 頁／医学書院／2022

小児の特徴「Children are not just miniature adults (子どもは、大人の単なるミニチュアではない)」をふまえた感染症診療の原則・考え方・プラクティスを示し、「感染臓器とそこに感染した微生物を考える」診療を実践していくために最適な 1 冊。「発熱へのアプローチ」「感染臓器」「検査」「原因微生物」「治療薬」「予防接種」の各章で、エビデンスに基づいた記載とともに、臨床現場で実際に使えるマニュアルの簡明さも備えている。治療薬の章では、小児の抗菌薬や抗ウイルス薬についても解説した。小児感染症診療の新しいスタンダード！



小児感染症の診かた・考えかた

上山 伸也＝著

定価 4,840 円／A5 判・450 頁／医学書院／2018

小児感染症において、感染臓器や原因菌を適切に見極める「診かた・考えかた」が満載。小児の診療に携わるすべての医師が、正しい感染症診療を実践できるよう工夫した。成人感染症を学んだ研修医や若手医師が、小児を診る時のとまどいや違和感を軽くし、小児と成人の違いや共通点がわかる！ 感染症各論では、小児のどの年代に多い感染症か、よくみられる原因菌、適切な診断方法や抗菌薬の選び方、経過の追い方について記述した。小児の診療に携わる医師必携の 1 冊！